

**製品名: Crk II (リン酸化 Tyr221) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04500**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:20000-1:40000
分子量	40kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CRK
別名	CRK; Adapter molecule crk; Proto-oncogene c-Crk; p38
遺伝子 ID	1398.0
SwissProt ID	P46108
免疫原	抗血清は、ヒト CrkII の Tyr221 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 187-236

**背景**

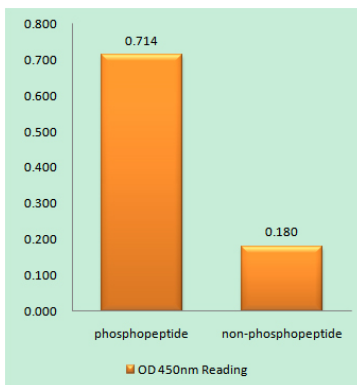
この遺伝子は、いくつかのチロシンリン酸化タンパク質に結合するアダプタータンパク質ファミリーのメンバーをコードしている

す。この遺伝子産物は、複数の SH2 および SH3 ドメイン (src 相同ドメイン) を持ち、SH2-リン酸化チロシン相互作用を介してチロシンキナーゼ近傍の細胞質タンパク質をリクルートする、いくつかのシグナル伝達経路に関与しています。このタンパク質の N 末端 SH2 ドメインは形質転換の正の調節因子として機能するのに対し、C 末端 SH3 ドメインは形質転換の負の調節因子として機能します。異なる生物学的活性を持つ異なるアイソフォームをコードする 2 つの代替転写産物が記載されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],domain:C 末端 SH3 ドメインは形質転換の負の調節因子として機能し、N 末端 SH3 ドメインは形質転換の正の調節因子として機能すると考えられます。 ,domain:SH2 ドメインは SHB との相互作用を媒介します。 ,function:Crk-I 型と Crk-II 型は、生物学的活性が異なります。 Crk-II は Crk-I よりも形質転換活性が低い。 Crk-II は、Rac 依存的に接着誘導性の MAPK8 活性化、膜波立ち、および細胞運動を媒介する。 DOCK1 および DOCK4 との相互作用を介して、アポトーシス細胞の貪食および細胞運動に関与する。 ,PTM: 細胞接着時に Tyr-221 がリン酸化される。 SH2 および SH3 結合パートナーとの結合を負に制御する。これは、おそらくリン酸化 Tyr-221 と SH2 ドメインとの分子内相互作用の形成によるものと考えられる。これは最終的に Crk シグナル伝達経路のダウンレギュレーションにつながります。 ,PTM: Crk-II (40 kDa) のリン酸化により 42 kDa のフォームが生成されます。 ,類似性: 1 つの SH2 ドメインを含みます。 ,類似性: 1 つの SH3 ドメインを含みます。 ,類似性: 2 つの SH3 ドメインを含みます。 ,細胞内位置: 細胞接着時に細胞膜に移行します。 ,サブユニット: 最初の SH3 ドメインを介して、ABL1、C3G、SOS、MAP4K1、MAPK8、および DOCK3 と相互作用します。 刺激誘導性チロシンリン酸化により、SH2 ドメインを介して BCAR1、CBL、CBLB、PXN、IRS4、および GAB1 と相互作用します。 SH2 ドメインを介して、EGFR、PDGFR、INSR などのいくつかのチロシンリン酸化成長因子受容体と相互作用します (類似性による)。 DOCK1 および DOCK4 と相互作用します。 SHB と相互作用します。

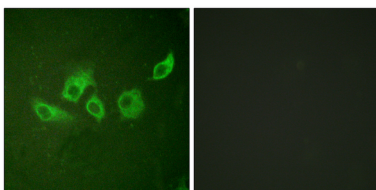
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;ErbB\_HER;ケモカイン;焦点接着;Fc  $\gamma$  R を介した貪食;神経栄養因子;アクチンと細胞骨格の調節;インスリン受容体;癌における経路;腎細胞癌;慢性骨髄性白血病;

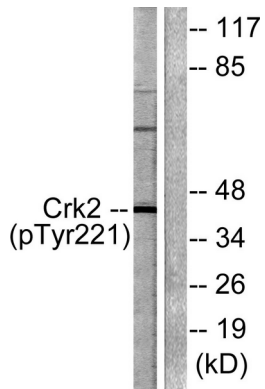
## 画像データ



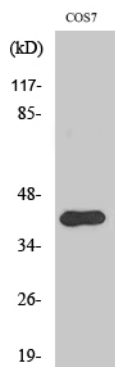
CrkII (リン酸化 Tyr221) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



CrkII (リン酸化 Tyr221) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COS7 細胞ライセートのCrkII (リン酸化 Tyr221) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホ Crk II (Y221) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析